

JANS43 日本看護科学学会、日本看護系学会協議会 共同企画シンポジウム
「看護学から学術の危機と発展を考える」

学術としての看護学 その深化と国民の健康への実践的寄 与

2023年12月10日

山川みやえ

一般社団法人日本看護系学会協議会

The Japan Centre for Evidence Based Practice: JBI Centre of Excellence



日本看護科学学会COI 開示

山川みやえ

一般社団法人日本看護系学会協議会
The Japan Centre for Evidence Based Practice:
JBI Centre of Excellence

本発表に関し、開示すべきCOI関係はありません

一般社団法人日本看護系学会協議会【JANA】

Japan Association of Nursing Academies



看護学の
学術発展のために

組織の概要

社員学会の方へ
MEMBER

- ニュースレター
- 会員情報の広場
- 声明・見解
- 総会

看護職の方へ
NURSING STAFF

- 見解・声明
- 災害関連情報
- 規約・規定
- 成果物

一般の方へ
PUBLIC

- 見解・声明
- リンク
- シンポジウム
- 総会

看護学の学術的发展をめざす看護系学会の相互交流と連携をはかり、看護学研究成果を社会に還元する学会活動を支援し、また、看護学学術団体の立場から、人々の健康と生活の質の向上のため国や社会に向かって必要な提言を行う。

1. 社員相互の情報交換
2. 日本学会会議及び国内外の学術組織との交流・相互協力
3. 看護系の学会活動の支援
4. 国や社会に向けての必要な提言
5. その他本法人の目的達成に必要な事業



JANAの位置づけ



一般社団法人 日本看護系学会協議会
Japan Association of Nursing Academies

各学会

各学会



公益社団法人
日本看護協会



日本看護系大学協議会



厚生労働省

文部科学省



一般社団法人 日本看護系学会協議会
Japan Association of Nursing Academies

看護：生活に立脚した国民の健康に関する諸行動

医療的処置の度合い



看護学：学術的發展が社会実装(N=1も)につながる

その時々グローバルヘルスにおけるトレンドによるものなのかもしれないが、その裏で、人知れず健康に問題があり苦しんでいる人もいる。それがたとえ一人であっても、生活に何か悪影響があるのであれば、そこに全力投球をして支援するのが看護職の役割である。もう少し掘り下げて考えてみると、同じ病気、同じ年齢、同じ性別でも、病気の体験は人それぞれである。私たちはN=1にこだわっていく集団であり、看護学はそれを体系化することを目指す学問であり、学術的發展が社会実装につながらなければ、無意味になりうる学問領域である。それゆえN=1へのこだわりは強いが、N=1の価値を学術的に可視化することはまだ発展途上である。

—山川みやえ「学術と社会の未来を考える Vol. 12 N=1 からN=1 に帰結する看護学の挑戦」学術の動向 2021年7月号より抜粋

Evidence Based Practice : エビデンスに基づいた実践

The process of **shared decision making** between practitioner, patient, and others significant to them based on

- Research evidence,
- The patient's experiences and preferences,
- Clinical expertise or know-how,
- Other available robust sources of information

【Sigma Theta Tau International : EBP Position statement (2007)】



国民が看護に期待していること

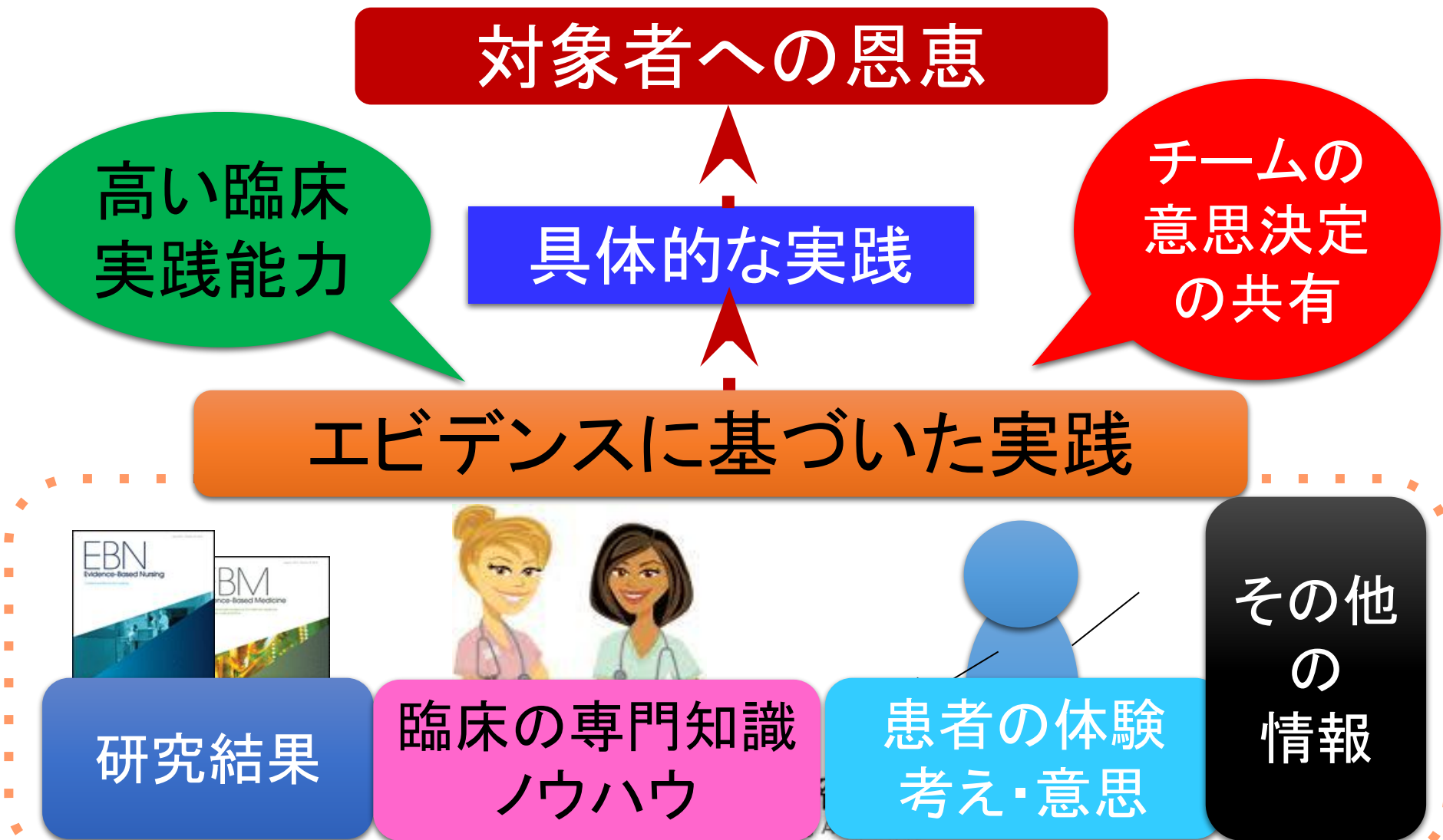
やさしい 思いやりがある 快活さがある 親切
知識・技術がある 責任感がある 誠実である など

1993年「看護に関する世論調査」



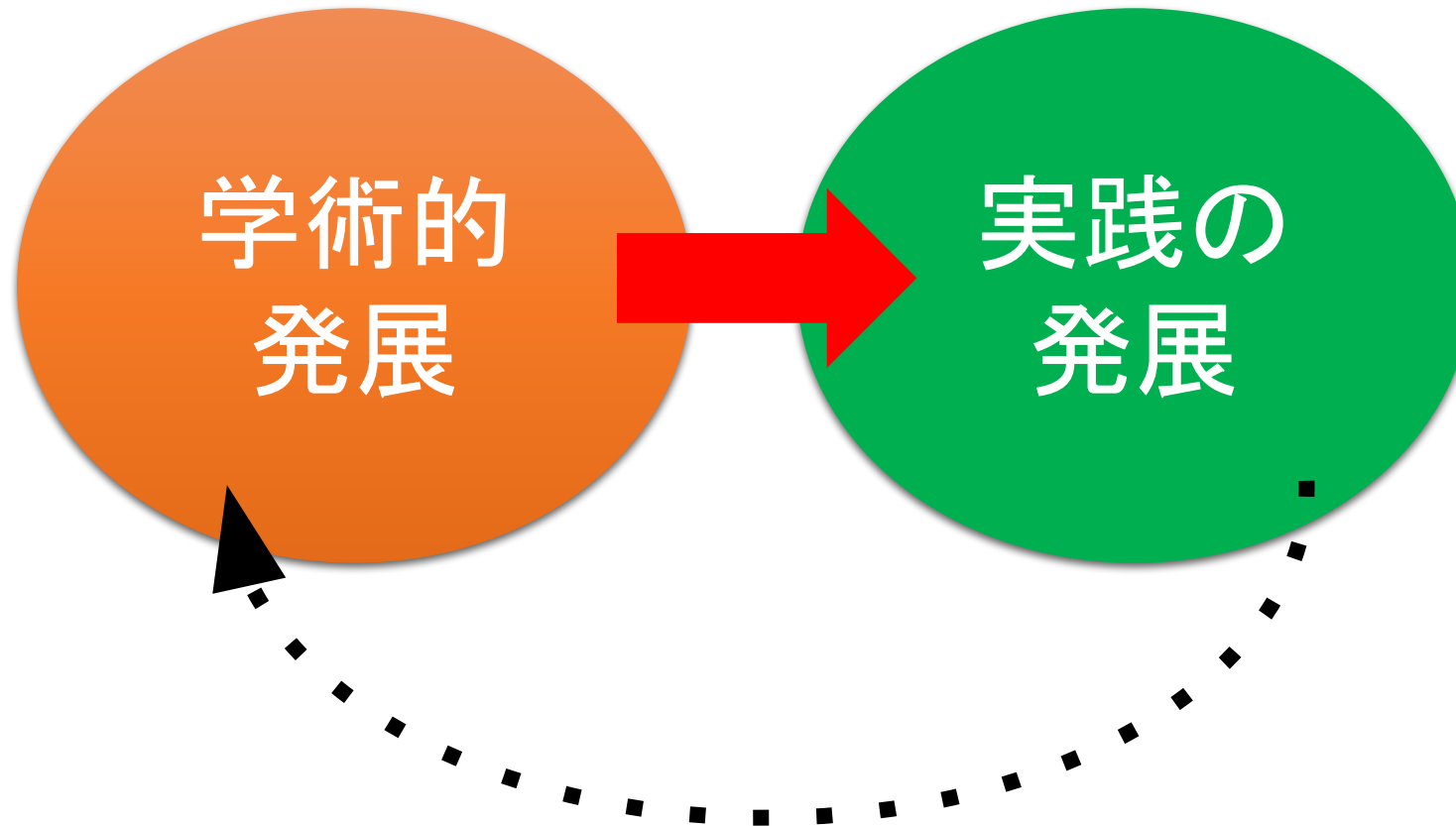
- **多職種、対象者に何ができるのかを理解してもらえる人**
- **自身ができることと相手が期待することが一致している人**
- **期待を寄せてもらえる人**
- **期待に応えられる人**

多職種協働による意思決定の共有



研究と臨床現場は別もの？

常に表裏一体の関係



健康ニーズから研究～実装までのプロセス



JBI Reviewers Manual の図

健康ニーズ

知識の必要性・エンゲージメント・持続的インパクト



エビデンスをつくる

研究
臨床知
談話・演説・ナラティブなもの

エビデンスをつかう

文脈分析
変革を簡単にする
プロセス&アウトカム評価

エビデンスを伝える

積極的な普及
システムに組み込む
教育

エビデンスをまとめる

システマティックレビュー
エビデンスサマリー
ガイドライン

これからのEBPの方向性

ScienceとHumanityの融合と、AIを含む多職種協働

ナノレベルのデータ

ビッグデータ

ナラティブデータ

Science

Humanity

EBPサイクルをまわすJANAの動き



看護学の学術的发展をめざす看護系学会の相互交流と連携をはかり、看護学研究成果を社会に還元する学会活動を支援し、また、看護学学術団体の立場から、人々の健康と生活の質の向上のため国や社会に向かって必要な提言を行

EBPのサイクルを促進する



研究遂行の促進
研究デザインの開発促進
ガイドライン開発促進
教育、システム化
実装 など